

成蹊會誌

1995.7 No.81



就任

学長就任にあたって
文学部長に就任して

宇野 重昭
柳井 道夫

2
4

対談

上野裕也前学長に聞く

5

特別寄稿

最近の地震予知事情
大震災と救急医療
社会科学としての医療
体験// 阪神大震災

西村 蹊二
松田 博青
河北 博文
小長谷辰夫

7
12
14
20

随想

片山尚先生の『ジャングル突破そのまま』
「ふれあい社会」の構築
客船「飛鳥」いろいろ
全日本学生馬術選手権優勝
成蹊大学生気質今昔
塩まみれ

加藤 清光
五十嵐 純
浅見 顕二
相川 一成
楠木 胤昭
野崎 泰彦

21
22
24
25
28
29

表紙の言葉／6 彩蹊会へのお誘い／31

大学チアリーダー部再度全米選手権大会へ／40

この人に聞く／45 学術・教育助成研究報告／46

予告／50 第72回枯林忌／50 退職挨拶／51

成蹊小学校80周年記念事業／53 物故／53

同窓のつどい

●第十八回桜祭

32

●学校・年次会のつどい

34

旧制高校最終卒業生クラス会 清和会
大学卒業三十周年 やよい会親睦会

●体育会・文化会OB会

35

蹊新会 準硬式野球部OB会
地理研ミニOB交歓

●業界・企業同窓会

37

観光成蹊会 IHI成蹊会
三菱銀行成蹊会

●地域同窓会

38

香港成蹊会 北海道支部総会
愛知成蹊会 九州支部総会

●恩師を囲んで・クラス会

41

寺尾学級クラス会 肥後和夫先生を囲む会
高校42年H組 宇野ゼミOB会
あかまんまの会 故藤平桓三先生追悼文集発刊
船越学級クラス会 飛龍会 桃香会
津曲学級謝恩会

学園寮へのお誘い／54 成蹊学園の近況／56

学園史料館資料紹介／62 図書館蔵書紹介／64

アジア太平洋研究センターとAPEC協力について／65

平成6年度寄付金芳名録／66 叙勲／68 成蹊会報告／68

表紙の題字は上條信山先生、絵は宮道弓子（高34年）

とって全く味わったことの無い、自由な束縛されない非日常の世界を体験しました。又夜になると私共と違ったジャンルの人達、外国人と食事を共にし、豪華絢爛たるショーで楽しみ、これぞ正しく洋上文化だと痛感した次第です。この様な洋上文化を乗船されたお客様が体験出来る様な客船にすべく三菱重工長崎造船所にお願ひし建造したのが客船「飛鳥」です。



飛鳥の概要

飛鳥は平成三年十月末就航しました。が現在迄に十万人を超えるお客様に乗船戴き、中でも一〇〇日を越えて乗船戴いたお客様が十五名を数えております。ここで飛鳥の宣伝がてらその概要を御案内しますと、総トン数二八七一七トン、全長一九二・八メートル、全幅二四・七メートル、最高速力二二ノット、客室数二九二室(ツインベット全室窓有り)最大乗客総数六〇四名、乗組員総数約二七〇名強(内外国人約二〇〇名)それにミュージカルショー(外国人ダンサー一〇名ミュージックバンド(欧米人七名編成)カジノ(お金は掛けられません)映画館 サウナ、スチームバス、レストラン(二ヶ所)ラウンジバー(三ヶ所)お茶室等々の装備を持っております。又日本人は船酔いなさる方が多い為、船酔い防止策としてフィンスタビライザーを装備し、横揺れを最大限防止しております。

次に料金ですが一番ランクの低い部屋で一晩四万八千円(中には四万円クルーズもあります)最高二十万円、その間五つのランクに分かれておりまして、高いと思えば高い、安いと思えば安い、三日いれば一四万四千円奥様を連れて行けばその倍です。

「やはり高い、そんな金を出すならヨーロッパ旅行が出来る」とおっしゃる方もいますが、ヨーロッパ往復十何時間を椅子に縛りつけられしかも目的地で移動することにバックをし、重い荷物を引きつり廻すことでよろしかったら、それは価値観の問題でしょう。

新しい旅のパターン

船の一日は大体飛行機で一時間の距離ですから、どこどこへ行っただと言ふことを目的とした旅ではありません。クルーズは新しい旅のパターンです。女性の方は食事の仕度と後片付けから完全に解放され、思い切りオシャレをしてもおかしくない世界です。又船内では食事は勿論のこと、カルチャー講

座、ショー、ダンスパーティー、映画、その他いろいろな催物が全てコンパクトに無料で参加できる様、組込まれており、仮りに、全てに参加しクタクタに疲れてもタクシーをつかまえて帰る必要もありません。船旅は非常に高い満足感を与えられるものと思います。

来年の三月より九十七日間の世界一周クルーズを思い切って発表しました。既に満席となり、再来年も同時期に世界一周クルーズを実施することと致しました。クルーズの人気は確実に高まっていると思われます。皆様も是非一度船旅を試されては如何かと思ひます。

郵船クルーズ(政経・36年)

あの日あの時

全日本学生馬術選手権優勝

相川 一成



私が全日本学生馬術選手権で優勝したのは、一九六〇年(昭和三五)年の第三回大会でした。この大会は学生馬術にたずさわる者なら誰でもがめざす最高峰のもので、現在でも続いていると思います。

相川(成)が初優勝

馬術 父子二代、選手権者に

順位	氏名	所属	得点
1	相川 成	成蹊中学校	240.00
2	山田 忠男	早稲田大学	235.00
3	山田 孝	早稲田大学	230.00
4	山田 孝	早稲田大学	225.00
5	山田 孝	早稲田大学	220.00
6	山田 孝	早稲田大学	215.00
7	山田 孝	早稲田大学	210.00
8	山田 孝	早稲田大学	205.00
9	山田 孝	早稲田大学	200.00
10	山田 孝	早稲田大学	195.00



全日本学生馬術選手権1位の相川選手(成蹊大)13障害の飛越

父子二代のチャンピオン

全日本学生馬術 優勝の相川君



刻まれた父の名

28年前と同じ優勝タテ

天才教育は大嫌

先輩、監督である泰吉氏

父君泰吉氏(故人)は

成蹊中学校(旧制)、昭和四年卒業

全日本馬術選手権とは

大会は関東一五名、関西六名、九州中部、東北、北海道から各四名ずつ選抜された合計三三名が出場し、馬場馬術と障碍飛越の二種目合計で競われるものです。当時の学生馬術のレベルは関東が圧倒的に強く、慶応、明治、学習院、早稲田から各三名、成蹊からは私と同期の山田忠男君の二名が出場しました。二人とも三年生で初出場。いずれも強敵で出場することだけで満足でした。

またこの大会は各大学や乗馬クラブから集められた乗馬を抽選で割り当てられ、各競技とも二頭ずつ騎乗して争うことが特色でした。いろいろの競技会に出場しているのを見ることはあっても、乗ったことのない馬がほとんどであり、また能力的に差のない様に集められた馬もその日のコンディションの良し悪しもある訳です。これが競技の面白い所でもあります。好運はど

予選

大会は二月一六日から三日間。初日は私の苦手な馬場馬術でトップに三〇点も差をつけられて七位。二日目は得意の障碍飛越の予選。初日の一位と

三、四位の選手が難馬をひきあてて失点を重ねて姿を消し、初日二位だった僚友山田君がトップに躍り出て、私は三位に上昇したものの山田君とはまたまた三〇点の差。彼に余程のミスのない限りとても追いつくのは無理で望みなしという状況でした。

これまでのこの大会は予選上位一〇名による障碍飛越決勝が同じ日の午後実施され、場所も馬事公苑と決っていました。しかしこの大会に限って異例のことで決勝は第三日として後楽園球場で大々的に行われることになっていました。その後現在に至るまで見たことのない程新聞にもとりあげられ、国電の駅にポスターは貼られるし、入場料(なんと八〇円)をとる馬術競技は例を見ないことでありましたし、テレビ中継まであったのです。

決勝

二月一八日師走もおしまった後、後楽園球場は今のドームなど考えもつかないドンヨリとした曇り空。野球シーズンも終って外野の芝生をはがして一六個の障碍がセットされて、レベルは最高一・三米と学生としては高いものでした。

決勝一回戦。野球場の地面が非常に固く、私は乗った「豊旗」の誘導をシ

クジって、馬と共に転倒があったもののあわてて飛び乗って、減点をくいとめてゴール。しかし、断然トップだった山田君はひきあてた当日唯一の難馬に手こずり失権。勝負とはいえず、まったく気の毒でありました。その時点で私がトップに立ってしまったのです。

決勝二回戦は二位となった明大二年の木曾君が先に跳んで私の差は三・一点。私は「オシャレオー」という名の馬に乗って九番目に出場。初めて乗る馬でしたが、「オシャレオー」とは呼吸も合って本当によく跳んでくれました。最終のレンガ障碍の上に乗っていった白い柵を倒しての減点三点。なんと〇・一点差で勝つことができました。まったく信じられない好運のみといった気持ちでしたが、生涯で最高にうれしかったことではありました。

高校一年から始めた馬術生活において、最も練習した年でありましたが、私にとって個人戦では唯一の勝利でした。そして先輩、同輩、後輩に恵まれて、皆に支えられてのものでした。

父子二代の優勝

私の優勝にもう一つ話題がありました。父泰吉(故人、昭和四年成蹊中学〔旧制〕卒)も同じ大会の第四回に優勝しており父の名の刻まれた優勝楯を

二八年振りに我家へ持ち帰ることになり「父子二代の優勝」と新聞にも報じられました。これまた唯一の私の父への親孝行であったと思っています。

当時の馬術部

当時の馬術部は選手層も厚く本当に強い時代でした。国体戦では高校三年の時、大学でも二年生の時に関東大会で優勝した時のメンバーでした。全日本主座にも出ましたが、高校では関大一高、大学でも同じ関大に負けて丸坊主になったこともありましたが、我々のあこがれであり目標であった影山祐三先輩(政経七回)は昭和三〇年二七回大会で優勝し、ローマオリンピックの代表でした。後輩松平正樹君(政経一五回)は東京オリンピックの総合馬術に出場し軽井沢まで応援に行ったものでした。二人のオリンピック代表にはさまれて切磋琢磨しましたが、競技だけでなく我々の目ざしたものがありませんでした。

人間形成をめざす馬術

「成蹊の学生」といっただけで「ボンボン」と思われるのがイヤで「馬術部だけはそうはなるまい。学生馬術を通じてそうはいられない人間形成をめざそう」と教えられ鍛えられたのが田畑脩先輩(政経七回)でした。今でも

私のバックボーンになっています。

政経一回卒業の我々の年代は私と山田君の他、池田一郎、小林由児（故人）、清水道彦、清水美幸、芝原健一、谷口光長君の八人の選手と坂井啓祐、松永義明の両君が体育会や学連のマネジャーとして活躍していました。いまでも良く会い気軽な仲間としてつきあっています。

さて、四年生になって清水道彦君も関東代表選手となり、山田忠男君と三人でも一度学生日本一をめざして練習に励んでいた一九六一年九月五日昼に厩舎から火が出て繋留馬五頭が焼死するという事件がおきてしまいました。OB、父兄の寄付を仰いで再建、馬も揃えましたが、秋のシーズンの出場を辞退して夢も消え残念でした。最高の喜びと悲しい思い出を経験させて貰ったのも忘れられません。

今はすっかり馬から遠のいてしまっています。転勤で東京をはなれてはおかげで、阪神大震災も体感してしまいました。元気でいられるのも、どこかに馬術部での経験が活かしていると思っています。

キリンビール（政経・37年）

で三番目に大きい店である。私は成蹊のオープンから半年ほど、本社に戻っていたが、上の判断により成蹊はOBの方が良いという事で、今度は店長として母校で仕事をする事となった。

成蹊学生今昔

学内にいて仕事をしながら、私達の学生時代と、何事にも豊かな中で育った今の学生との比較は難しいが、いくつか気がついた事を記しておく。

一、学生数も私達の頃の倍となっている。成蹊が派手ではないが着実に世の中に受け入れられている現われである。私達の頃より広い層から学生が来ている。

一、男女人数差が少なくなっている。まだ男子の方が多いものの女子も多くなってきた。

一、今の女子学生は何事にも積極的に生き生きと男子と同等に頑張っている。その現われとして私達の頃には成蹊の女子のかんりの人達が卒業してもそのまま家に入ってしまう人がいたが、今はほとんどの人が就職か大学院を選ぶ。

全体として女子の方が男子より昔に比べて大きく変っているように見えるが、これは今の世の中と同じ動きである。その最たる物はコンパなどの

成蹊大学生気質今昔

鍋木 胤昭

ブックセンター

中学から大学迄成蹊で過した私であるが、学生時代特に愛校精神が強かった訳でもない普通の学生であった自分が縁あって四年前から学生会館の中に100坪預かって「成蹊学園ブックセンター」の経営を行っている身の不思議と喜びを感じている今日この頃である。

昭和62年、十五年間の九州、関西の勤務から東京に帰って来て本社勤務となった。時は正に大学教育の上で10年後には十八才人口が大幅に減る事を見越した大学、特に私立大学の施設や学部増、組織の変更などがピークに達しようとしていた時期である。各大学とも生き残りを懸けてのサバイバルに勝残る為にハード、ソフト、カリキュラム内容、そして教員組織の充実が急務であった。我社にも全国の大学より教職員、学生の厚生施設としてブックセンターの出店依頼が目白押しの状況であった。

私の本社での仕事のひとつは、全国

の大学に売店出店を実行する事であり、大学当局との交渉、打合せから始まり、メジャーを持つての現地の計測から最後の搬入まで、全国を飛び回って厚生施設を作った。そんな七年前、久しぶりでなつかしい母校成蹊の標の道を歩いた。そして学生会館の厚生会（大学直営）の店の薄暗いライトの中で、棚ではこりを被って寝ている本を見た時



付き合い方であろう。

私は茶道部のOBとして現役諸氏とコンパに付き合う事があるが、男子が昔ほど酒飲みがいなくなった反面、女子が酒が強くなった。昔は女子はあまり飲んでくれなかったが、今は女子も平均してよく飲む。又、昔は一次会から二次会になる頃に女子はいつのまにかいなくなつて男子だけが残つたが今は、それこそ最後まで付き合っている。もっともロートルのOBである私は二次会位で疲れて消えるが、タバコも又しかり。昔は成蹊の女子でタバコを吸う人は珍しかったが、今はいたる所で目にする。只やめてほしいのは学内歩きながらの喫煙者の女子も増えているようでこれは見苦しい。

因みに我ブックセンターに来る日本たばこ産業の人によれば、武蔵野近辺の大学で外国タバコが一番売れるのは成蹊がダントツとの事。

又、成蹊の学生の今も昔も変らぬ事もある。

- 一、注意された事はすなおに改める
 - 一、物事に比較的淡泊である。
 - 一、多少軽めな所がある。
 - 一、青白き学徒はほとんどいない。
- 読書からみた成蹊
ブックセンターをやっている、気に

なる事、気が付く事は学生の本の購入傾向である。69ある大学の傾向を見ると実にひとつの方向を示している。

結論から云うと大学のレベルと本を買う傾向が実にイコールであるという事である。ある大学ではテキストと情報雑誌しか売れない。又別の大学では雑誌は多少幅広く売れるが、あとは文庫本も流行ものだけ。せっかくだ店を作ってもがっかりするような大学もある。さて我が成蹊はどうであろうか。

先輩諸兄姉には安心して頂きたい。確かに活字離れは進んでいるようだが、ここではまだ読んでもらいたい良い本、比較的高額なハードカバーの本がテキストなどではなく売れている。ベストセラーの本も文庫になる前から買っている。文庫本も、新潮、文春などは勿論

塩まみれ

皆様は塩という何を連想されるでしょうか。白い、辛い、安い、サッパリ、ザルツブルグ、ソルトレーク、塩鉄論、エステ……

私は成蹊を卒業後に母方の実家を嗣

に商売からだけでなく、これは何とかしなければいけないと考えた。そして学園と話し合つて一年半、現在のブックセンターが平成二年後期よりオープンした。「ブックセンター」という名から、所謂「書店」「本屋」のイメージを持たれると思うが、ここは食堂以外の出来るだけ多くのサービス（自動車教習所の免許の受付から文房具はもとより、アイスクリーム、菓子まで）を盛り込んだ学内唯一の物販店となっている。成蹊ブックセンターは我社で扱い品目が一番多い店である。因みに現在我社の全国大学ブックセンターは平成七年三月末で69校であり、その中

の事、成蹊では岩波文庫がよく売れている。そしてまだまだコーナーを拡げる方向にある。これは読書傾向、レベルとして健全にして高いと判断して良いと思う。もっと注目すべき事はこれらの本が店にない時、毎日注文書で申込む学生が多いことである。そしてその内容を見ると確実に時代のレベルから見て高いレベルの内容の本が多い事に驚かされる。もちろん8000人からいるので、すそ野も広いのだが。

読書傾向で今後の大学の未来を占う事は出来ないが、よい伝統の持続は今後とも大きな力になると思う。

OBとして学内で仕事をしている本屋の雑感と一人合点として御笑読願いたい。

紀伊國屋書店（政経・42年）

野崎 泰彦

ぎ、備前岡山の地で文成年間から続く製塩業に従事しておりますので、製塩に絞つて以下に若干述べます。

海水が起源

塩は洋の東西を問わずに全て海水を